

ESBL 産生菌の実態調査

保健科学課 麻生嶋 七美・本田 己喜子・松田 正法
吉澤 千尋・徳島 智子・宮基 良子・樋脇 弘
食肉衛生検査所 小西 智子・馬場 由紀子・小島 和也

第 58 回福岡県公衆衛生学会

基質特異性拡張型 β ラクタマーゼ (以下, ESBL) 産生菌は, 薬剤耐性遺伝子を同菌種間だけではなく異なる菌種間にも伝播させるため, 医療機関において問題となっている. 今回, 健康者糞便 249 検体, ESBL 産生性が疑われた A 病院の臨床分離株 9 株, 同病院における院内環境の拭き取り 44 検体, 福岡市と畜場に搬入された牛・豚の直腸便それぞれ 100 検体, 市販鶏肉 60 検体, および 2000~2009 年の間に当研究所で分離された患者由来 EHEC 220 株 (O157, O26) と赤痢菌株 70 株の計 290 株を対象に実態調査を行った. 検査の結果, 51 検体 57 株の ESBL 産生菌が検出された. 健康者や牛・豚の糞便からの ESBL 産生菌の検出率は 4%~7.2%であったが, 鶏肉では 25%と高く, これら分離株の大半は *Escherichia coli* であった. A 病院の院内環境からは ESBL 産生菌は検出されず, 臨床分離株は, *Citrobacter koseri*, *E. coli* が多かった. 当研究所で分離された EHEC および赤痢菌株からは, *Shigella sonnei* 2 株のみ検出された. これらの ESBL 産生菌から検出された β ラクタマーゼ遺伝子は, 健康者では TEM 型および CTX-M-9 group が多く, 臨床分離株では菌種ごとに異なったグループ型が検出され, *S. sonnei* 2 株は CTX-M-1 group (TEM 型との混合型)であった. 牛では CTX-M-9 group, 豚では SHV 型などが検出され, 鶏肉では SHV 型および CTX-M-1 group が多かった.